

2014 (平成 26) 年 6 月

NPO 法人 日本ピオトープ協会 第 6 回ピオトープ顕彰受賞作品の紹介

顕彰委員会委員長の講評：『ピオトープフォーラム in 横浜 2014』 - 地域の自然と環境学習 -
(2014 年 5 月 30 日) にて



それでは顕彰委員を代表して、受賞作品について講評等をさせていただきます。

全国の各地区からいろいろな形で選考いただきまして、最終的にあがってまいりましたものを、この顕彰委員会で一日かけ、議論あるいはチェックをいたしまして、今回の表彰という形にさせていただきました。

今日も発表いただきますが、ピオトープ大賞の「宮原ホタルの里」、これは地域の人々が非常に熱心に長期的に参加して、設計から最終的にできたものの維持管理まで積極的に行っていたいただいています。今日もおいでいただきました、まちづくり推進委員会、これが中心となって、地元の市あるいは町内会、自治会、個等、かなり有機的に活動しているということで、全国のピオトープ活動のモデルとなるということで高く評価されたものであります。元々は、私有地であり、一時的にはいろいろな形で利用されていましたが、時代の流れの中で放置されていたものを、再度復活させたという意味では、我々にとってもモデルとなる事例だと考えております。

また、学校ピオトープ大賞の「ひかり保育園ふれあいピオトープガーデン」は以前からいろいろと話題になっておりまして、意欲的な取り組みであると、特に屋敷園長のコンセプトが素晴らしいということで、田中九州地区委員長にお聞きすると、園児はけがをしてもやむをえないということで、かなり自由にピオトープ等で活動させるということです。その活動させる場を作っていたいただいたというところ、園のなかだけでなく周辺を含めて行われているということで高く評価させていただきました。

それから、審査委員長の「西の湖園地 めだかの学校ピオトープ」でございますが、ロータリークラブが長年にわたって、ロータリークラブの会員の方が熱心にピオトープ作り・維持管理に携わっておられ、私も何年前に見せていただきました。特にびわ湖はいろいろな意味で、ラムサール条約等の保護すべき注目すべき場所でこのような活動をしていただいていることはかなり意味のあることだと思っております。

同じ滋賀県の「逢坂小学校のピオトープ」は、環境教育賞を受賞されました。特にこちらは非常に長く、平成 9 年からこの活動を続けいまだに続いているということでこの顕彰にあがってきました。我々にとっても、他のいろいろなピオトープ活動をされている方々にとっても、長続きさせるというモデルケースになり、学校ピオトープとしても、かなり高い位置づけになると思えました。

協会会長特別賞は「北九州市響灘ピオトープ」、これは非常に大規模なもので、行政指導といいますか北九州市が非常に熱心に取り組みされているピオトープであります。埋立地等でのピオトープ作りというのは非常に意義のあることでありまして、ぜひ皆様にも機会があればご覧になっていただきたいと思えます。

そしてご紹介が最後になりましたが、技術特別賞「河川のピオトープ ソウレ川」は、コンクリートのところをいかにピオトープ化するかということで非常に新しい挑戦でありあるいはモデルケースであります。我々としては、ピオトープというのは特定の決められたものがあるのではなくて、生き物の棲む空間としていろいろな素材を作って、使って、それをどのように生き物の空間として有効にさせるか、いろいろな試みがこれからされてよいのではないかと思います。そういう意味でもこの事例は斬新な挑戦的であると表彰させていただきました。

ピオトープ作りに関しましては、今申しました通りいろいろなタイプがあるということ、それから部分的には失敗したとしていても、そういうものを含めて、ピオトープ作りが今後とも次の世代を担う子供たち、それから地域の人々にとって、意義のあるような自然空間あるいは空き地空間として地域に根付いていくことを期待しておりますので、今回顕彰受賞された方々には今後ともご努力いただければと存じます。

本日は受賞されました関係の方々には誠におめでとうございませう。

(横浜国立大学学長、協会代表顧問 鈴木邦雄顕彰選考委員長)

ピオトープ大賞

(各応募書類より転記)

名 称	宮原ほたるの里
受賞者	宮原地区まちづくり推進委員会、呉市、株式会社カジオカ L . A
【テーマ・概要】 戦前、私有地に造った庭園を、地域住民に公園の様に解放していた場所が、荒れ放題になっていましたが、当時は蛸が飛び交い、ヤマアジサイが咲いていたとの近隣住民からの懐かしがる声から再生計画が持ち上がり、緑の環境デザイン賞の助成金を基に、協働作業で鬱蒼としていた樹木を整理し、園地に残された東屋、橋や景石等を再利用して、豊富な山水を引き入れた水路や池等を造り、アジサイが、咲き乱れ、ホタルが舞い、三世代が楽しく遊べ心癒される里山として整備しました。	
【整備方針と管理手法】 宮原地区まちづくり推進委員会を中心に、呉市役所、地元小学校2校、中学校、宮原地区自治連合会と協働で、アジサイの剪定や、除草、清掃等の管理を行い、学校の総合学習としての観察会や、環境学習の場として活用しています。住民の育てたホタルを放流し、地域ぐるみでホタル祭りやアジサイ観賞会等のイベントを実施して、地域の連帯感を深めています。	
【様子】	
	
中学生と協働作業	イノシシ被害対策柵設置 協働作業

学校ピオトープ大賞

名 称	ひかり保育園ふれあいピオトープガーデン
受賞者	ひかり保育園、南九州大学環境園芸学部環境園芸学科造園計画研究室、株式会社園田グリーンセンター
【テーマ・概要】 テーマ：『幼児・児童から地域住民までが学習と交流できるピオトープ環境』 近年、地方都市でも里山や河川等は小学生以下には危険箇所とされ、子供達だけでは自由に行けないのが現状である。そのため、幼児や児童を対象に、豊かな自然環境の中で安全に遊びながら自然環境教育が出来るピオトープの創出が必要とされていた。そこで2012年春、以前は土木会社の残土置場のため雑草が繁茂し、野良猫等が棲息して不衛生であった更地を、幼児から児童（学童保育）およびPTAの自然環境教育施設としての機能を持たせつつ、さらに地域住民にも開放されたエコロジカル・コミュニティ・ネットワークに重点を置いたピオトープ環境として創出した。	
【整備方針と管理手法】 生命の連鎖・共生を学ぶ自然環境教育施設とする方針から、草食昆虫の餌場・生息地の「原っぱエリア」には、甲虫類や野鳥等を誘致する給餌木（園児の食育も考慮）や落葉のエコスタックを設けた。また「水辺のエリア」は吐水口（ハードバス兼用）から池へと早瀬・平瀬・淵へのエコトーンを形成し、水辺の動植物が生息出来るように自然素材の多自然型護岸や池底とした。池には水生生物の観察・捕獲の拠点となる親水観察デッキと川原を設けた。また池の貯留水を利用する手押しポンプは、自然遊びを兼ねた水環境改善を考慮したエアレーションとしても機能している。管理は、保育園側ならびに園児・児童・PTAの協力で自然環境を保全しつつ実施している。	
【様子】	
	
ホタルの幼虫を放流	魚の放流

審査委員長賞

名 称	西の湖園地 めだかの学校ピオトープ
受賞者	びわ湖八幡ロータリークラブ
【テーマ・概要】	
琵琶湖最大の内湖、西の湖がラムサール条約の登録湿地として追加されるのを機に、琵琶湖の自然環境を守ろうという意識を育てていきたい、との趣旨で「めだかの学校」を設立し、西の湖に突き出た半島状の園地にかつてあった池を自然を守る象徴として復元し、周囲に水生植物を植込みメダカが住みやすいように整備致しました。	
【整備方針と管理手法】	
周囲100m、深さ30cm～50cmの池を作るため掘削用の小型重機による荒掘を始めました。掘取った土はその周辺に運搬機により運び、少し築山風に機械で荒敷きならし、その後人力による整地を行いました。池の周りは土が崩れないように丸太杭の打設を数ヶ所、その他は水生植物を植えることと致しました。所々、池の中に入れるように丸太階段を設置、その他観察用木製デッキを1ヶ所取り付けするように致しました。ピオトープ池の周囲にはロープで人が入れないように丸太打設として結束しました。池の中にはマコモ、オギ、ショウブ、アゼスゲなど在来植物を植込みし、完成後、近隣の学校児童、園児がメダカの放流を致しました。多くの方との関わりのなかで、地域の老人会の方々に心から感謝申し上げます。維持管理、春、秋 第2回委員会にて実施しております。	
【様子】	
	
メダカの学校開校式準備	放流

協会会長特別賞

名 称	北九州市響灘ピオトープ	
受賞者	北九州市	
【テーマ・概要】		
本市では、環境未来都市にふさわしい「都市と自然との共生するまち」を目指し、「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創生事業」を進めています。その中核的な取り組みとして、響灘地区にある廃棄処分場跡地に、自然創生となる日本最大級の広さ約41haの響灘ピオトープが誕生しました。市民が自然と触れ合いながら生物多様性の重要性や生態系の仕組みを学べる魅力ある自然環境学習拠点です。		
【整備方針と管理手法】		
廃棄物の埋め立てのあとにできたでこぼこの地形が、湿地や淡水地、草原などの多様な環境を生み、様々な生物が息をするようになったため、当初の計画を見直し、ピオトープとして整備することとしました。通常、廃棄物処分場跡地の整備の際、平らに覆土するところを、地形を変えないよう一定に50cm覆土し、さらに希少生物の出現時期を避けて数年にわたり小分けに整備を行いました。その結果、生物の移動ルートを確認することができ、生き物の楽園・ピオトープを守ることができました。		
【様子】		
		
ベッコウトンボ	巣立ちするチュウビ	ミサゴボール

技術特別賞

名 称	河川のピオトープ ソウレ川
受賞者	株式会社鈴鍵
<p>【テーマ・概要】</p> <p>『ソウレ川』は、300年間 国を治めた徳川家のルーツ、松平家の歴史に触れる事ができる松平郷に流れている川です。松平郷は市街地から東に離れた山村に位置し、現在でも当時のおもむきを残す自然に囲まれた土地で、松平城址や松平家の菩提寺・高月院、家康を祀った松平東照宮などがあります。遊歩道も整備されており、歴史を感じながらゆっくり史跡巡りや初夏には花菖蒲園で、美しい菖蒲の花を楽しむことができます。</p> <p>さて、こんな自然に囲まれた所に周囲の景観と異なった川ができました。一見多自然工法にも見える水路は、護岸に間知石が積まれ、落差は、コンクリートのスロープに石が張り付けてあります。また、流れの部分は無造作に石が並べてあり、周囲の景観とは明らかに不釣合の川です。この水路が出来る前はホタルも多く見られたそうで、住民の方々はホタルの復活を願い、幼虫を毎年川に放流していますが、ホタルの生息する環境が整っていない為ホタルを見る事が出来ませんでした。</p> <p>当初、豊田市役所土木課の発注で地元業者が施工したが、その後河川課に移管する時に、「このままの状態では河川を管理する側として受け取ることができない」という事で、弊社が計画・設計・施工を行いました。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <p>《どのようにして直すか?》</p> <p>周囲の景観を崩さない工夫(流れ・境界の多様性)で川の流れ(瀬・淵)を創造する。</p> <p>水制工・落差工の設置等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市足助町に流れる足助川を見本とし、 周囲の景観に合ったピオトープを提案。 <p>三面水路の場合は、設計段階で流量計算がされており河川断面が決定されているので、こうした水路の改修を行う場合は、余裕断面の確保を確認し計画しなければならない。</p>	
<p>【様子】</p>	
	
完成	完成後カワセミ訪問

環境教育賞

名 称	逢坂小学校ピオトープ
受賞者	逢坂小学校、ぼてじゃこトラスト
<p>【テーマ・概要】</p> <p>子ども達が、季節の変化を感じたり、川などにすむ生き物を身近に感じたりすることをテーマとしている。現在、大津市の市民団体「ぼてじゃこトラスト」の協力の下、環境委員会でイチモンジタナゴの繁殖実験に取り組んでいる。そのため、池の部分には多くのイチモンジタナゴが見られる。また、隣接する用水路の部分は、数年前に堰を設置してカワムツやメダカを放流し、観察ができるようにした。</p> <p>毎年、用水路の部分で、1・2年生の児童がザリガニを釣ったり、自然科学クラブの児童が魚つかみをしたりしている。また、「ぼてじゃこトラスト」の方々や児童で、イチモンジタナゴの繁殖状況の確認も行っている。</p>	
<p>【整備方針と管理手法】</p> <p>葉が生い茂り1日のうちのほとんどが日陰になる状態であり、水底は泥で覆われていた。</p> <p>多くの生き物が生息のできる環境にするため、整備作業を数回行った。2台の電動汚物用ポンプを用い、1台目のポンプでくみ上げた水や水道水を使って水底を洗い、2台目のポンプでたまった水を泥ごと外部へ排出した。同時にザリガニの駆除作業も行った。</p> <p>また、生い茂っていた木は、設置当時の長さまで枝を切り落とした。モリアオガエルの産卵場所になり得る枝は、意識的に残すようにした。その結果、日中は光が差し込む明るいピオトープになった。</p> <p>現在は稚魚が多数いるため、頻繁に水を抜くことはできないが、泥が堆積し、ザリガニの数が増えた場合は、作業を行う予定である。 参考 URL http://www.otsu.ed.jp/osaka/biotope/biotope.html</p>	
<p>【様子】</p>	
	
ピオトープ改修	